

令和元年度 第1回

逗子市子ども・子育て会議
会議録

令和元年 6月6日開催

令和元年度 第1回逗子市子ども・子育て会議
令和元年6月6日(木) 会議録

日 時	令和元年 6 月 6 日 (木) 15 時 から
開催場所	逗子市役所 5 階 第2会議室
出席者	<p>【委員 (名簿順)】</p> <p style="text-align: center;">隈部委員、前島委員、石井委員、角田委員、小関委員、中島委員、飯野委員 山崎委員、森委員、横地委員、寛川委員、野坂委員、猿田委員、杵山委員</p> <p style="text-align: right;">以上 14 名</p> <p>【事務局】</p> <p>山田部長、高橋次長、杉山参事、中村担当課長、石黒担当課長 桐ヶ谷療育教育総合センター長、栗飯原保育課副主幹、村上主幹、西之原主事 社会福祉協議会 三富</p>
欠席者	なし
開催形態	公開 (傍聴者 なし)
議 題	<p>(1) 令和元年度の事業概要について</p> <p>(2) 平成 30 年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について</p> <p>(3) 平成 30 年度総合計画に係る事業の意見聴取について</p> <p>(4) 放課後児童クラブ選考基準について</p> <p>(5) 放課後児童クラブ保育料見直しについて</p> <p>(6) 保育所等入所調整基準の見直しについて</p> <p>(7) 子ども・子育て支援事業計画の改定について</p>
議 事	別添 議事録要旨のとおり

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> • 会議次第 • 名簿 • (事前資料①) 逗子市子ども・子育て支援事業計画 (個別計画進行管理総括表—1・事業進行管理表) • (事前資料②) 子ども・子育て支援事業計画進捗状況 • (事前資料③) 放課後児童クラブの選考基準の新設について • (事前資料④) 放課後児童クラブ保育料の見直しについて • (事前資料⑤) 保育所等利用調整基準の見直しについて • (当日資料6) 「逗子市子ども・子育て会議」及び「逗子市子ども・子育て支援事業計画」の概要 • (当日資料7) 平成31年度逗子市当初予算案の概要 • (当日資料8) 逗子市子ども・子育て支援事業計画の改定スケジュール • 議題(4)資料 • 「逗子市子ども・子育て支援事業計画の改定」に伴うアンケート調査(未就学児調査) 調査結果報告書 平成31年3月
------	---

令和元年度 第1回逗子市子ども・子育て会議

令和元年6月6日(木) 議事録要旨

【議題】

- (1) 令和元年度の事業概要について
- (2) 平成30年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について
- (3) 平成30年度総合計画に係る事業の意見聴取について
- (4) 放課後児童クラブ選考基準について
- (5) 放課後児童クラブ保育料見直しについて
- (6) 保育所等入所調整基準の見直しについて
- (7) 子ども・子育て支援事業計画の改定について

1. 開会

委員 14名中 14名出席 議事録の署名人は、隈部委員と山崎委員

- ・委員委嘱
- ・市長あいさつ
- ・自己紹介
- ・会長及び職務代理者の選出

2. 議題・報告等

【議題1】令和元年度の事業概要について

事務局より「令和元年度の事業概要について」説明（当日資料7）（説明省略）（質疑応答）

【寶川会長】

産後健診を1回から2回に増やした理由は。

【事務局(中村担当課長)】

産後健診を1回増やして、それと産後ケアを行うということが、二つ一緒に同時に行うことで補助金の対象になる等の、いくつか国の制度があり、それに基づいている。

【事務局(高橋次長)】

やはり産後うつとか、育児に不安がある方をフォローして支えていこうという国の気運もございませし、近隣の自治体でもやっている。逗子も足並みを揃えてというところでございます。

【寶川会長】

アンケートを見ても、お子さんが0歳の時の時期の不安がとても多いと感じたので、それとも関係しているのかと思った。

【議題2】平成30年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

事務局より「子ども・子育て支援事業計画進捗状況について」説明

(事前資料②)(説明省略)(質疑応答)

【野坂委員】

事前資料②の7、子育て短期支援事業(ショートステイ)について、量の見込みが14人とあるが、どこでやるかは基本的には見込みを立てて場所は調査中ということか。

【事務局(村上主幹)】

その通りである。受け入れてくれる所がなかなかない中で、計画にはこのような形で見込みの量を載せているが、なかなか実現しない状況である。

【野坂委員】

事前資料②の5、乳児家庭全戸訪問事業について、平成30年度は訪問率98.3%になっている。6人の方の訪問ができていない理由はどんなものか。

【事務局(中村担当課長)】

数名ができていないのは、住民票をおきながら、実は海外生活されていて会えない方、それから、長期に入院をされていて、ご家庭に訪問してもお子さんに会えない、というレアケースであった。逗子はこれ以外に把握率というものを示しており、ここ十数年来、把握率はずっと100%である。

【小関委員】

事前資料②の11、病児保育事業について、平成29年度は申込者数が33人だったのが平成30年度は13人に減っている。これはどういうことか。12のふれあいスクールについて、平成30年度から、時間的にもニーズ的にも似たような部分があって、その影響で利用実績が減っているのか確認したい。

【事務局(村上主幹)】

逗子市では病児保育施設がないので、ファミリーサポートセンターでの病児預かりという形で行っている。平成28年度に比べると、29年度、30年度と実績は減ってきている。保育園に入る前のもの時にと申すことで申し込みをされているが、実際の預かりは少ない。病児預かりに関しては、会員が研修を受けないと資格を与えていない。29年度、30年度が少なかったのは、新規申し込みが少ないということだった。27年度、28年度が多かったのは、今まで会員だった人が病児預かりの講座を受けて資格を取ったという人がこのあたりは多かった。29年度からは、新規で研修を受ける方には必ず病児預かりの講座がもれなくついてくるようになった。改めて病児保育の講座を受けるのではなくて、新規に会員になる方の人数になっているので、年々減っているように見えるということである。

【石黒担当課長】

事前資料②12のふれあいスクールの状況ということで、先程、予算の話の中で緊急財政プログラムの話があったが、30年度からこのふれあいスクールは土曜日を閉めている。その土曜日を利用していた分が減り、76,024人から69,228人に減ったということである。

【小関委員】

事業概要に「日曜祝日を除き」とあるが、土曜日もということよろしいか。

【石黒担当課長】

はい。平成30年度からは土曜日もお休みです。申し訳ございません。

【限部委員】

待機児童の方が平成 30 年度は 8 人ということだが、この方たちは預けたいのに預ける場所がない状態なので、ファミリーサポートセンターを安く利用できる等の、待機児童の方のための対策案は出ているのか。

【事務局(杉山参事)】

ファミリーサポートセンターの預かりは、延長保育が利用できない場合等の短時間の利用を想定しているものなので、保育の代替をするということになるとマンパワーの面からも難しい状況です。待機の方 8 名の内訳は、お仕事を既にされている方が 2 名、探されている方が 6 名である。フルタイム、もしくはフルタイムに近い方々はほぼ入所の案内ができています。就労時間の短い方が待機になる傾向がある。6 名の求職中の方については、保育所に入所出来なかったから就労することが出来なかったということはあるかと思う。8 名の方が民間保育所等をご利用になっているかどうかについて残念ながら追跡は行っていない。

【限部委員】

新しい保育施設を増やすことや、待機になってしまったら、一時保育を利用しやすくしようとか、他の対策は考えていないということか。

【事務局(杉山参事)】

一時保育の枠を増やして一定数保障していくということもあると思う。またこちらには記載がないが 2 年ほど前から国の方でも企業主導型保育園事業を進めている。旧オーケースタアの場所に、YBS 逗子という保育園がオープンした。また、逗子郵便局のはす向かいに、ココカラデザイン保育園がオープンした。ここに入ったので待機にならないで済んでいる方もいる。

【石井委員】

事前資料②4の妊婦に対する健康診査について、補助券が全 14 回分給付されているが、この 14 回分というのは、他の市町村と比べて見るとどんな数字なのか。

【事務局(中村担当課長)】

全国ほぼ 14 回である。一般的に 2 か月に 1 回、その次が 1 か月に 1 回、その後 2 週間に 1 回、1 週間に 1 回になってお産となる。足し上げると 14 回になるのが平均的である。その間何か医療的なケアが入ればそれは妊婦健診に入らないので、医療費の方になる。補助券の金額や使い方についての内容については、市町村毎に差が出ている。

【議題 3】平成 30 年度総合計画に係る事業の意見聴取について

事務局より「平成 30 年度総合計画に係る事業の意見聴取について」個別計画進行管理総括表（事前資料①）説明（説明省略）（質疑応答）

【寶川会長】

目標 1 の評価は、「(a) 順調である」ということでよいか。

（一同異議なし。）

目標 2 の評価は「(c) 順調であるとみなせない」でよいか。

（一同異議なし。）

目標3の評価は「(b)概ね順調であるとみなせる」でよいか。

(一同異議なし。)

目標4の評価は「(b)概ね順調であるとみなせる」でよいか。

(一同異議なし。)

目標5の評価は「(c)順調であるとみなせない」でよいか。

(一同異議なし。)

【小関委員】

事前資料①1頁目の◇個別計画の評価1に、ほっとスペースの利用が減っている理由について、保育施設に入るお子さんが増えたことにより、ほっとスペースの利用は減っているものと考えられると書いてある。そういったベースがあるのであれば目標5の評価が(c)というのは、整合性が合わないと思う。確かに数は減っていて、順調とは言えないかもしれないが、評価に減っている理由が書かれているのを見ると、どちらかが違う気がする。

【石井委員】

そもそも、ほっとスペース利用者数目標の2万6千人という数字は、どういう数字なのか。2014年から変わらない数字なのか。

【事務局(山田部長)】

始めた時の元々の実績があり、そこからさらに増やしていきたいというところで、2万1千人から始まっている。その中で、池子のほっとスペースを午後までにして、カフェもあり、利用が増えるという状況で、目標がかなり高めになっている。結果的に、子どもの出生数は減り、様々な要因があるので、減りました(c)ではよくない。どう努力しなければならないか、保育所が整備されたのでそもそも利用者自体が減っていれば、増える要素がないので、目標数の考え方を変えなければいけないと思う。ご意見をいただければ、我々も数字を検討していきたい。公園があったり、ここ以外の子育ての場所が増えていると、ほっとスペースの利用は減る。原因究明は必要だと思う。

【寶川会長】

提案であるが、目標5に対しての評価は数字的なもので(c)としたとしても、総合評価として◇個別計画の評価では、現状を踏まえた上で考えたいと総括の意見として入れるのも一つの方法だと思いがいかか。

【横地委員】

以前からこういう作業を続けている中で、数字で目標を達成したとか、計画上仕方のないところなのだが、前回の会議でも意見が出たが、数字だけではなくて、質、中身が見える方がいいというのがこの子育て計画だけではなく、基幹計画である福祉プランでも言われている。フォーマットを変えることはできないので、コメントにいかにも表現できるかということがこの会議の肝である。ほっとスペースの利用者が減っていることも、逗子の中でいろいろなサークルなど参加できる選択肢がいろいろあることがこれから見えてくると思う。それがどういう形で展開されているのかをここで共有できればいいし、次の計画に活かせばいい。調査しているわけではないからここに載せられないかもしれないが、保育所の乳児が増え、子育ての場が増えたとみられ減っているのではないかなど、コメントを入れればいいと思う。これからこの会議で、それぞれの現場のなかで出てくる情報もみんな共有しながら、コメントに表現できればいいと思う。

【寶川会長】

それでは、目標5は(c)ということにして、◇個別計画の評価1の総括意見の中に、今いただいたご意見を入れていただくということで、数字だけではなく、中身をしっかりと把握していくことが大切なのではないかということを確認したということで、了承していただけるか。

(一同了承。)

【小関委員】

少子化が進んでいると書かれているが、逗子市の出生率など、逗子市の現状をうかがいたい。

【事務局(中村担当課長)】

確定した出生数を平成 25 年から申し上げる。平成 25 年 403 人、平成 26 年 371 人、平成 27 年 381 人、平成 28 年 377 人、平成 29 年 342 人である。もう一つ、逗子に妊娠の届け出をして母子手帳を差上げた方という数値もあり、平成 25 年 401 人、平成 26 年 391 人、平成 27 年 363 人、平成 28 年 368 人、平成 29 年 355 人、平成 30 年 340 人おおげさに言うと 10 冊ぐらいつつ減っている。これがイコール出生数にならないのは、転出入される方があること、プラス、途中で出産にまで至らない場合もあるので。ほぼこの傾向で乳幼児健診にも反映してくる。

【事務局(杉山参事)】

平成 26 年度の出生数は 371 人に対し、平成 27 年 3 月 31 日の住基台帳では 0 歳児は 400 人で、0 歳児で 30 名弱の社会増がある。平成 27 年 4 月 1 日の 0 歳児が 400 人であったのが、翌年平成 28 年の 1 歳児は 425 人に増えている。当市は、社会増として転入が多い構造がある。全体としては微減傾向にありますので、社会増が少しずつ減ってきているという構造なので小学校の児童人口が全体としては微減傾向である。平成 27 年の 0 歳児が 2 歳になったときは 443 人、3 歳は 455 人、4 歳のときは 471 人なので、毎年増えていて転入していただいているという全体の傾向はあるといえます。

【横地委員】

個別目標の評価に全体的にばらつきがあるので、総括的には(b)だと思う。

(一同了承)

(事務局より逗子市子ども・子育て支援事業計画の進行管理を説明。)

【横地委員】

まず、子育てネットワーク構築事業は、ポータルサイトを立ち上げるというのが最初の目標だったので、それを立ち上げてここまで利用者が増えたということで順調であるということでもいいとは思いますが、ポータルサイトの【分かりやすかったか】という部分ではマイナス意見もあるので、審議会の意見のところで、ポータルサイトを立ち上げたところは評価されるけれども、その内容が時代に合ったものなのかを検証してほしいという課題をいければよいと思う。評価としては、(a)順調であるでいいと思う。

体験学習施設講座等事業は、スマイルができて利用者数は一気に増えたが、子どもたちが行くところ、親子が行くところなのでスマイルと支援センターとほっとスペースはリンクしているのではないかと思う。そこを踏まえて減った原因を探って、人口が減ったとか、保育園に入る方が多くなったから利用者が少ないというのだったらまた違う考えでいかなければならないと思う。一つ一つは、スマイルができて体験学習施設は、数字的に減ってしまって目標を達成できなかったもので、(b)の概ね順調であるでいいと思うが、やはり減った原因を横断的に把握して、また違う方向、人数を獲得するだけではなくて、内容・質の変化にリンクさせることも考えなければならぬと思う。

子育て支援センター運営事業は、スマイルとも、ほっとスペースとも関係してくる。評価は順調であるということだが、年間来所数を見るとちょっとどうなのかなと疑問もありましたが、リンクすると(b)なのかなという感想はある。ただネットワーク会議は、少人数ながらも活発な意見が出たということなのでそこは評価していきたい。利用しづらいという声も出ていたとあるが、ここも、何年か続いている中で、中の状況、利用者の状況を把握して、次に向けて内容を精査していただきたい。

妊産婦・乳児訪問事業は、先程事務局から話があったようにほぼ 100%で、数名は事情があるときちんと確認ができているところで順調であると思う。訪問では色々なエピソードがあると思う。そのエピソードが一番重要で、子育ての事情・実情がわかるということで、それがなにかのところで活かせばいいと思う。

子ども相談室運営事業は、子ども部門が9階に入ったということと、療育と教育の総合センターひなたができたことで、非常に逗子は連携が取れてきたので、評価ができるので、(a)順調であるでいいと思う。意見としては、全てが一体となるような、より一層の連携をとっていただけたいなと書けたらいいと思う。

ファミリーサポートセンター運営事業は、利用者がちょっと減ったということもあったが、これも順調であると言っていると思うのだが、横浜の方とか、地域に病児保育をやる施設がちょっと増えた。そこを利用している方もいる。そういう関係もあるので、逗子市内だけではなくて、周りの情報も鑑みながら、やっていかななくてはならないという印象はある。(a)順調であるでいいと思う。

【寶川会長】

数の増減に対して、質の変化はどうか、内容はどうか、減った増えたの原因は何なのか、少数意見も無視しないようにして検証していくようなまちづくりであるべき。

子育てネットワーク構築事業の事業評価は「(a)順調である」でよろしいか。

(一同了承。)

体験学習施設講座等事業の事業評価は「(b)概ね順調であるとみなせる」でよろしいか。

(一同了承。)

子育て支援センター運営事業の事業評価は、資料の記載通り「(a)順調である」かそれとも「(b)概ね順調であるとみなせる」にするかというご意見があったが、いかがか。

【石井委員】

個別計画進行管理総括表の目標5の評価を、数値の上で達成していないから「(c)順調であるとみなせない」にした議論があった。ここでも、数値の上では前年度より来所数が減っており、「(a)順調である」にしたら議論がかみ合わないと思う。

【寶川会長】

子育て支援センター運営事業の事業評価に関しては、本会議としては、「(b)概ね順調であるとみなせる」で承認ということよろしいか。

(一同了承。)

妊産婦・乳児訪問事業は、「(a)順調である」でよろしいか。なぜ訪問できなかったのかは理由とともに把握しているということをコメントに書いていただければと思う。

(一同了承。)

子ども相談室運営事業は、「(a)順調である」でよろしいか。

(一同了承。)

ファミリーサポートセンター運営事業は、「(a)順調である」でよろしいか。

(一同了承。)

【事務局(村上主幹)】

他にご意見があったら、メールやファックスなどで来週の水曜日までお願いしたい。

【議題4】放課後児童クラブ選考基準について

事務局より「放課後児童クラブ選考基準について」説明。(事前資料③)(説明省略)(質疑応答)

【小関委員】

元々は保育所と同じように希望する全員が入れることを前提として考えているという説明を市からいただいているということをご共有していただきたい。夕方型という話が出てきているが、元々は通常の形で、必要とする子供が学童保育を利用できることを目指すとうかがっている。現状としてやむを得ないということは承知をしているし、それを反対するものではないが、それはまず新しい方もいらっしゃるということなので、ベースにある上で必要なものだと思った上で、皆様のご意見をいただくということにしたい。先日会った高学年の方々、来年度は自分が学童保育をもう利用できないかもしれないという不安を持たれていた。それは、保護者の不安と子どもの我慢の上で成り立つものだというご意見を皆様から知っていただきたいと思う。

【中島委員】

選考基準の概要の②配慮を要する事項についてです。前にも質問して、障害を持つ子が個別対応で受け入れられるか否か聞いたのだが、実際はどんな子でも受け入れられるわけではないという話をいただいた。それは理解できるし、実際、現場で障害の重い子を預かるということは責任をもって預からなければいけないのでいろいろあるとは思いますが、障害があるということは、一人で留守番をできないし、普通の子よりもっと放課後の預かりを必要とする子だと思う。放課後デイサービスはある程度時間は預かってもらえるが、学童保育よりも短いので、親御さんが遠くで仕事をしている場合、最後の時間に間に合わず埋め合わせに苦労されている方もいる。今の放課後児童クラブの体制だとそこはどうにもならない状態になっていて、何とか埋め合わせをするが、子どもにすごく負担を強いている。親も会社と色々調整しながら早く帰れるように努めたりしている。今後も、障害児を持った親がフルタイムで働くというのはもっと増えていくと思うので、同じような状況の方が増えていくと思う。もっと障害児の受け入れができるようにするとか、そういう所をぜひ検討していただきたい。

【事務局(杉山参事)】

ご要望として承る。毎年、秋口に希望をきく際、個別に詳細を聞く必要があるときには面談をして、親子さんとお子さんに実際のクラブの状況を見ていただいている。放課後児童クラブは学年ごとに教室があるわけではないので、大きい教室に1年生から6年生まで授業が終わるとワッと来て、その日によって違うグループで違う遊びをする。子どもの関係性の中での安定性がいつも同じ教室に同じメンバーがいるのとは違う。クラス単位ではないからこそ、みんなでケアリング、支え合いをしたりする。それで保育園ではお受けできたけれども、放課後児童クラブではお受けできないお子様がどうしてもいらっしゃる。そこの埋める事業の必要性は十分承知している。放課後児童デイサービスという事業もあるが、目的がお子様の療育、発達支援のため保護者の方のお仕事の都合などのニーズに合わせる事が難しい。大きな問題であり、課題であると認識している。

【寶川会長】

放課後児童クラブの選考基準の新設の概要は、これでいいとしたいがどうか。

(一同了承。)

【議題5】放課後児童クラブ保育料見直しについて

事務局より「放課後児童クラブ保育料見直しについて」説明。(事前資料④)(説明省略)(質疑応答)

【小関委員】

学童保育は、国で金額等を決められていない。全くの無料のところから、補助事業だったりすると25,000円とかするところもある。逗子市では市が決めていて、その中から人件費等も出している、そういう環境にある。そこをまずご承知いただかないと分かりにくいかなと思う。上限18,000円とすることについても前回の会議でも出されましたけれども、上限についても国は全然決めていませんで、藤沢市の例がここに出されているが、藤沢市では、生保家庭で月々2,000円の補助を出しているだけである。経済的に困難な家庭も学童保育をしっかりと利用できる、という考え方を導入していただいたのは大変評価できる。その上での金額等については、自分の頃と時代も変わっているので皆様にご意見を出していただきたい。スケジュールはどうなっているのか。

【事務局(杉山参事)】

概ね6月の末から7月上旬に、上限や保育料に関して、市としての考え方を整理し、案を作成し、保護者会の方にお示しをし、ご意見をいただき、この会議等でも審議し、パブコメを9月に行って進めていく予定である。

【小関委員】

7月の保護者会で何かご提案が出るということか。

【事務局(杉山参事)】

その通りである。

【竇川会長】

上限18,000円について、ご意見は。

【横地委員】

保護者にとって安いに越したことはないと思う。小関委員からも、長い時代の流れや他市の様子を聞くと非常に評価できるというご意見もいただいた。その中で8階層、二人で1,130万円以上の世帯である、保育園などで見ていると、両親二人でとなるとこれ以上もいるのではないかという感覚はある。相応の負担ということで仕方ないのかなと思う。これで市の財政が潤ってきて、何か手当てができるなら期待したい。5～7階層の上限を下げる考慮をし、前回の会議で、このパブコメのラインでよいと決めて、議会でこのようになったということなので、とりあえずいいのではないかと判断する。

【事務局(杉山参事)】

ひとり親世帯の最高額を9,000円から18,000円とすることについてはいかがでしょうか。保育所の保育料をそのまま導入しているので、ひとり親世帯だから安くなるという構成にはなっていない。低所得の方に関しては、ひとり親についての減免は続けるということで、ご理解いただきたい。ひとり親家庭については、議会の審議で指摘を受け、18,000円よりは減らす方向で検討している。

【事務局(山田部長)】

前回の会議では、ひとり親世帯でも所得があれば減免がなかったが、そこは考慮しようということで所得に応じて減免を設定することとした。

【事務局(杉山参事)】

最終的には財政的な効果がひとつありますので、試算をさせていただきながら公平性が大きなポイントとなります。その視点で市として案をつくらせていただきたい。

【寶川会長】

7月の保護者会議でも示して、そのときにでた意見も踏まえて今後審議を進めていくということによろしいか。

(一同了承。)

【議題6】 保育所等利用調整基準の見直しについて

「保育所等利用調整基準の見直しについて」説明。(事前資料⑤)(説明省略)(質疑応答)

【寶川会長】

保育士の加点をフルタイム内定 35 点とフルタイム就労中 50 点の差以上にすることと、市外居住者で市内保育施設に勤務する者については 100 点減点を行わない、という2点が大きなポイントである。7月に案を出していただいて、またこの会議で審議していただければと思う。

【議題7】 子ども・子育て支援事業計画の改定について

事務局より「子ども・子育て支援事業計画の改定について」スケジュールを説明。(当日資料8)(説明省略)(質疑応答)

【寶川会長】

ご提案いただいたスケジュールで進めていくことに関して、ご了承いただけるか。

(一同了承。)

【議題8】 その他

【事務局(村上主幹)】

逗子市福祉プラン懇話会の委員について。年2回子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等を、上位計画である逗子市福祉プラン懇話会で報告をするため子ども・子育て会議の委員1名を福祉プラン懇話会の委員として出席いただいている。前期は横地委員にお願いしているが、引き続き横地委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

(一同了承。)

【事務局(村上主幹)】

次回の会議は7月下旬を予定している。

3. 閉会

以上